

## 戦火に「駆けつけ」

### 11月南スーダン派兵の自衛隊に新たな任務



家族に見送られる自衛隊員。絶対に戦場に送ってはならない



## 至近距離射撃を訓練

### 「殺す」「殺される」軍隊に変わる

稲田防衛相は9月15日、南スーダンへの次期派遣部隊が「駆けつけ警護」や「宿営地の共同防護」について、実際の場面を想定した訓練を始めたことを明らかにした。市街地での「至近距離射撃」訓練などがそれである。至近距離で遭遇した相手が敵なのか一般人のかを瞬時に判断し、引き金を引く。だが実際には、相手より先に撃

つ以外にない。すでに武器使用の基準や手順を定めた新たな交戦規定(ROE)がつく

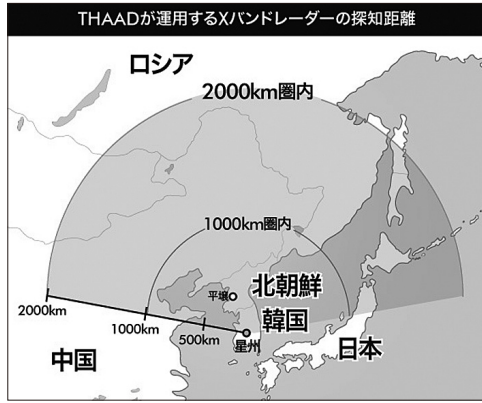
### 青森からの交代派遣の阻止を

自衛隊の新たな任務となる「駆けつけ警護」とは、戦火の渦の中に飛び込んでいって武器を使うことだ。11月に交代派遣される自衛隊員が、「殺し、殺される」ことになるのは避けられない。次期部隊は、青森駐屯地の第9師団第5普通科連隊だ。

南スーダンは20年以上の内戦を経て2011年に独立した国で、スーダン全体の石油資源の8割が南スーダンにある。2013年には大統領派と副大統領派との間で再び内戦が勃発、今年7月には首都ジュバで大規模な戦闘が起きて270人以上が死亡した。

2004年にはイラクに派遣された。当時の隊員は、「あの時は砲弾が何度も飛んできたが、たまたま当たらなかつただけ」と証言している。防衛庁(当時)は、隊員の戦死を想定して、秘密裏に棺(ひつぎ)を運んでいたという。これまでは憲法9条が禁止する「海外の武力行使」にながらとして「駆けつけ警護」は認められていなかったが、昨年の戦争法によって可能になった。安倍政権は、南スーダンPKO部隊に適用することによって、武力行使のできる自衛隊に変えようとしている。そうして、朝鮮有事への自衛隊派兵を狙っている。

# 「韓国はどこにも サードはいらない」



韓国・慶尚北道の金泉市で9月24日、サード(THAAD)迎撃ミサイルの配備に反対する集会が開かれ、住民など1万人が参加した。

パククネ政権は7月、隣町の星州への配備を発表したが地元住民の反対闘争が爆発、60日に及ぶ抗議集会の中で配備場所の変更追い込まれた。

## 広がる戦争阻止の闘い



【左】実験発射されたサードミサイル【右】サードとセットで配備されるXバンドレーダーの探知範囲【2段目】ソウル市内での反対デモ (9/8)

サードミサイルは、弾道弾ミサイルを成層圏よりも上の高度で迎撃するために米陸軍が開発したものだ。最大射程は二百

## 日韓共同行動に参加を

ロシア系のゴルフ場を配備場所にしたが、今度はサードが使うXバンドレーダーが向けられる金泉市から反対運動がまき起った。

パククネ政権は「北朝鮮の核実験で安全保障が

危機になった」「(サード反対は) 国家安保への敵対だ」と叫んで闘争の圧殺に動いたが、「韓国のどこにもサードはいらない」が合言葉になって反対運動が韓国全土に広がっている。

これに対して安倍政権は、米韓日の軍事体制を求めて戦争をあおっている。昨年の戦争法は朝鮮有事に対する集団的自衛権行使を最も念頭においたもので、米軍や韓国軍を守るという形で自衛隊が参戦するものだ。米韓両政府は核攻撃も辞さないと言っている。戦争させないために11月日韓共同行動に参加しよう。

### Joint Action in Tokyo & Seoul

国境を越えた連帯行動で、朝鮮での戦争と改憲・労働法改悪を阻止しよう!

- 11月6日(日) 全国労働者集会 (日比谷野音/正午)
- 11月12日(土) 民衆総決起闘争 (ソウル)

<呼びかけ団体> 【韓国】民主労総ソウル地域本部  
【日本】関西生コン支部/港合同/動労千葉/国鉄全国運動  
写真はゼネスト大会に集まった韓国の5万人の労働者 (9/29)

